

令和 2 (2020)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	ゲノム免疫：内在性ウイルスの抗ウイルス活性の動作原理解明と機能資源としての確保
研究代表者	朝長 啓造 (京都大学・ウイルス・再生医科学研究所・教授) ※令和 2 (2020)年 9 月末現在
研究期間	令和 2 (2020)年度～令和 6 (2024)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】</p> <p>本研究は、細菌の CRISPR-Cas システムに類似したゲノム免疫機構を哺乳動物において探索・解析するなど、内在性ボルナウイルスの抗ウイルス免疫機構を解明することを目指すものであり、研究代表者らのボルナウイルスに関する研究成果に基づく独自性の高い研究である。</p> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>本研究は、内在性ウイルスの抗ウイルス活性の動作原理解明と機能資源としての確保につながるもので学術的に価値が高い。また、進化学においても新たな知見を提供することが期待される。</p>